

水害経験と備える知恵（近江八幡市水茎町・元水茎町）

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図(タイル)を複製したものである。(承認番号 令元情複、第422号) 第三者がさらに複製する場合には、国土地理院長の承認を得なければならない。



日野川
昭和34年伊勢湾台風時、「だいら」(堤防の中にある中段)まで、水が来ると「危ない」と判断していた。

昭和34年伊勢湾台風時
決壊箇所

昭和34年伊勢湾台風時、森に水があたり水茎方向に水が流れた。

決壊場所付近
野村と小田の境は、昔から「キレシヨ」と呼ばれていた。



【昭和34年】

湖岸近くにある水茎干拓地の排水機場は、洪水時には水没して機能しなくなった。



【現在】

昭和34年伊勢湾台風時、野村と水茎の間を通る国道等が少し高くなっているため、一時的に堤防の役割をした。

野村町では、半鐘を鳴らして住民に決壊を知らせた。その鐘の音は水茎町まで聞こえた。

キレシヨと呼ばれている場所は堤防が低く、土が砂だった。増水すると、よく水が吹き出していた。

野村と小田の境目
昭和34年伊勢湾台風時は、「キレシヨが危ない」という理由で、7~8名の消防団が土嚢積みをしていた。

昭和34年伊勢湾台風時、屋根が僅かに見える所まで、3m程度浸水した。排水には1ヶ月以上かかった。(元水茎町内での最高水位は約7m25cmであった。)



【当時】

【現在】

元水茎と牧の境界。牧地区の方が、3m程度地盤が高い。



【現在】

昭和34年伊勢湾台風時、床上に箱などを並べて高くし、その上に荷物を置き、水に浸からないようにした。

昭和34年伊勢湾台風時、水茎町・元水茎町では、消防団が各戸に避難を呼びかけて回った。また、老人や子ども達は一足先に避難させていた。

昭和34年伊勢湾台風時の決壊の原因は、木製の仁保橋が流され、下流にあるコンクリート製の野村橋に引っかかり、水が堰き止められたからである。

凡例

- : 戦後から昭和年間に破堤、越水、浸水が発生した場所
- : 水害に対する知識を確認できる場所
- (黄) : 過去の水害に対する詳細情報
- (緑) : 水害に対する知恵の詳細情報
- (紫) : 過去に浸水した範囲
- (橙) : 避難の目安になる浸水が発生する場所
- ➡ (青) : 過去の水害時のはん濫水の流れ

